

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究

研究分担者：藤井 英樹
公立大学法人大阪公立大学 医学研究科肝胆膵病態内科学 講師

研究要旨：近年、本邦における肝がんや肝硬変の背景肝疾患は変容してきており、ウイルス性肝疾患が減少した一方、非ウイルス性肝疾患である、肥満や生活習慣病に起因する代謝異常観点脂肪性肝疾患（MASLD）及びアルコール関連肝疾患（ALD）が増加している。医療従事者や肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活動において、従来のウイルス性肝疾患に加えて、今後は生活習慣に起因するこれらの肝疾患への対応力が求められる。一方 ALD 患者を支援するための資材は十分ではないため、本研究はその創出を目的としている。今年度は ALD の啓発や節酒指導に役立つ資材として、①目標書き込みマグネット、②目標書き込みシール、③押し待ち受け、④押しペン立て立ての大阪府ならびにインターネット上での効果検証を行った。

A. 研究目的

近年、本邦における肝がんや肝硬変の背景肝疾患は変容しており、ウイルス性肝疾患が減少した一方で、非ウイルス性肝疾患であり、肥満や生活習慣病に起因する非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と、アルコール性肝疾患（ALD）が増加している（Enomoto H et al. J Gastroenterol. 2020, Tateishi R et al. J Gastroenterol 2019）。医療従事者や肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の活動において、従来のウイルス性肝疾患に加えて、生活習慣に起因するこれらの肝疾患患者への対応も求められるようになってきている。しかしながら、ALD 患者への啓発や教育およびそれを支援する肝 Co の活動に資する資材は十分でない。また、ALD に対する節酒の必要性は多くの肝 Co を含む市民が理解しているが、一方で具体的な活動方法がわからない、活動の際の資材が少ないといった課題も指摘されている。本研究ではこうした肝 Co の活動を支援・促進するための資材等の創出を目的とする。

B. 研究方法

- ① ALD における節酒サポートツールである『押しペン立て』の肝臓病市民公開講座（Osaka Liver Festa）での配布と感想の自由記載
- ② ALD における節酒サポートツールである『押し待ち受け』のインターネット HP での掲載
（倫理面への配慮）今回の研究で使用したグッズはいずれもフリー素材である。また、患者の感想は自由記載としており個人情報は収集していない。

C. 研究結果

- ① 2023 年 8 月 5 日に大阪公立大学医学部附属病院主催の企画「Osaka Liver Festa」をあべのハルカス 25 階会議室で開催した。参加者は 105 名。その講演の中で減酒グッズ『押しペン立て』、『押しマグネット』の説明を行った。講演後の休憩時間に、性別・年代を記載したらお 1 人 1 個

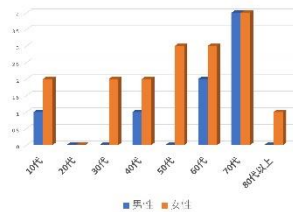
まで持って帰っていいと説明したところ、以下の結果であった。

・大阪のおばちゃんマグネットは性別・年代に関わらず広い支持であった。

面白い!と思った方はお1人様1つのみ、お持ち帰り下さい。



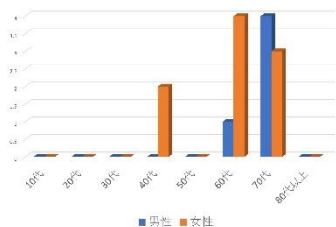
右の表に正の字をつけてからお取りください



男性 8名、女性 17名



飲酒者の方限定です

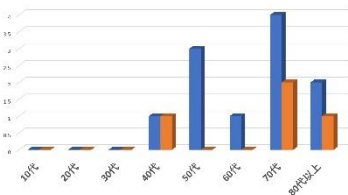


1番人気!

男性 5名、女性 9名



飲酒者の方限定です

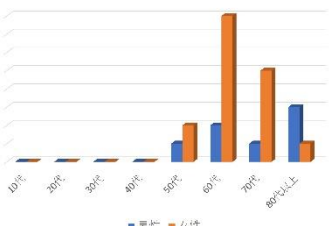


2番人気!

男性 11名、女性 4名



飲酒者の方限定です



男性 7名、女性 16名

・猫ペン立ては、特に高齢者に好評だった。」
 ・美女ペン立ては、男性に好評だったが 70代、80代女性にも好評だった。
 ・イケメンペン立ては圧倒的に女性の支持が高かった。また、本講演会の感想で減酒に関するコメントを記載する。

- 1) 「まず一杯減らしませんか」のグッズでの PR はユニークで、活用に期待できると思った。
- 2) 減酒ニャンコちゃんありがとうございます。禁酒でなくて減酒とても参考になった。
- 3) 脂肪肝とアルコールどうしてももう一杯がおいしいが、話を聞くと恐ろしくなるグッズをいただいたので (ネコ) 今日からボチボチ頑張りたい。

② 佐賀大学肝疾患センターの HP 上の減酒サポートツールの欄内に、減酒グッズ『推し壁紙』をダウンロード可能なスペースをお借りした。

<https://sagakan.med.saga-u.ac.jp/illness-treatment/4772.html>

本稿の表示回数は 2024 年 3 月 15 日時点で 415 回、平均エンゲージメント 47 秒、イベント数 1,018 であった。



D. 考察

今年度の取り組みとして、過去に作成した減酒グッズの配布およびHP掲載による啓蒙活動を施行した。これまで、減酒＝禁酒の時代が長く続いたが、精神科のアルコール専門の医師さえ減酒を推奨する時代である。2020年の米国肝臓学会のアルコール性肝障害に関するガイドラインでも、すべてのALD患者の最終治療目標は禁酒であるが、飲酒量低減が初期の治療目標になりうるということが明記されている。我々の取り組みは、「楽しく、アナログ的に減酒をする」であるが、その第一歩は成功しつつあると考えている。

E. 結論

令和5年度の当科の減酒啓発に関する取り組みを総括した。次年度は飲酒量の把握を目指した活動を、他県と提携して行ってきたい。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし